

回復期リハビリ病棟の服薬支援に関する現状と支援方法の検討

～看護師・作業療法士・薬剤師の意識調査～

田中 直子¹⁾ 吉田 淳子¹⁾ 中根 丈晴²⁾ 風晴 俊之³⁾ 美原 盤⁴⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 看護部

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 薬剤部

3) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 リハビリテーション科

4) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 院長

[はじめに]脳卒中再発予防のために服薬励行は重要であるが、身体障害を抱える患者の服薬支援の対応は確立されていない。そこで医療者の服薬支援に関する意識調査を行った。

[方法]回復期リハビリ病棟に配属された看護師62名、作業療法士19名、および薬剤師10名に服薬に関するアンケート調査を実施した。

[結果]全職種が薬剤の自己管理の確立が望まれると考えていた。しかし、服薬支援を必要とする患者の判断は看護師と作業療法士で一致せず、服薬の自助具についての知識は乏しかった。一方、薬剤師は患者に服薬支援をした経験はないが全員が自助具を知っていた。

[考察]病棟スタッフは、薬剤の自己管理の確立を望む一方、服薬支援について介入すべき患者の基準は標準化されていない。また、薬剤師は自助具などの服薬支援に関する知識はあるが現場では活用されていない。薬剤師を含めたチーム医療としての服薬支援体制の確立が求められる。